



第 5 号発刊にあたって

一般社団法人カリタス南相馬代表理事 幸田和生

今年 1 月 1 日、能登半島地震が発生しました。カリタス南相馬としては、発災直後に石川県に入った日本カトリック教会の E R S T（緊急対応支援チーム）に協力して、現地での支援態勢を整えるため、応援のスタッフを派遣することを決めました。ちょうど 1 月からスタッフが 1 名増えましたので、3 月末まで、2 名のスタッフを 1 名ずつ交替で派遣することができました。今後とも、能登の被災地の方々と共に歩んでいきたいと願っています。

新型コロナウイルス感染症の流行もやや収まり、昨年はカリタス南相馬に来てくださる方の数も増えました。そこで今年は「見さ来う南相馬！」（みさこうみなみそうま！）というキャッチフレーズを掲げることにしました。地元の言葉で「南相馬を見においで」の意味です。以前、ボランティアに来てくださった方にも、まだこの地に来たことのない方にも、今の南相馬を見ていただき、復興が進んだところと進んでいないところ、この地の厳しい現実と同時に地域の魅力をもっと知っていただきたいと願っています。皆さまのお越しをお待ちしています。

ごあいさつ

カリタス南相馬所長 根本摩利（旧姓 南原）

日々の活動を支えてくださっている全国の皆様に心から感謝申し上げます。コロナ禍になって 4 年ぶりに以前のように多くの学生ボランティアの皆さんを受け入れることができ、甚大な被害のあった秋田県の災害ボランティア活動に共に参加することができました。参加校の先生はじめボランティアの皆さんからも「こうして活動ができるのはカリタス南相馬というベースがあるおかげです。」と感謝の言葉を頂いております。祈りと支援で支えて下さっている全国の皆様のおかげであると心から感謝しております。

昨年、南相馬市の社会福祉協議会と災害協定を結んだことにより、南相馬市の防災訓練に災害ボランティアセンター立ち上げの段階から参加させて頂くことも出来ました。これまでの経験をもとに、今後も様々な支援活動をボランティアに来られる皆様と共に行って参りたいと思います。今後も変わらぬご支援とお祈りをよろしくお願い致します。

能登で被災された方々が一日も早く日常を取り戻せることを心からお祈り致します。

活動の紹介

一般社団法人カリタス南相馬 2023年1月～12月の活動を紹介します。

1) 食事と宿泊の提供

宿泊を希望するボランティアと現地で学ぶことを希望する方々に宿泊場所を提供しました。コロナ禍にあつて宿泊受け入れを制限していましたが、5類となったのに伴い徐々に制限を解除し、現在は従来の2部屋各6名、計12名を定員としています。



「どこでも足湯隊」の皆さん

2) ボランティア活動のコーディネート

相双地区の施設や団体及び個人などからのボランティア要請（除草作業、障がい者施設の作業補助など）と、ボランティア活動希望者との活動調整を行いました。秋田県や福島県いわき市で起きた豪雨災害による災害ボランティア活動にも参加できるよう調整を行いました。2022年3月に発生した福島県沖地震による屋根のブルーシート張りに関する依頼も継続しており、南相馬市社会福祉協議会を通して、現地調査、ボランティア派遣、依頼主さんとの日程調整、作業後の



相馬野馬追祭り行列ボランティア



秋田聖霊修道院の片付け作業

完了確認報告などを行いました。毎週土曜日には、旧避難区域である小高区の除草作業も継続しました。毎年夏に継続参加している相馬野馬追祭の行列にも小高神社からの依頼で26名が参加しました。

3) 地域住民の交流の場の提供とイベントの企画及び運営



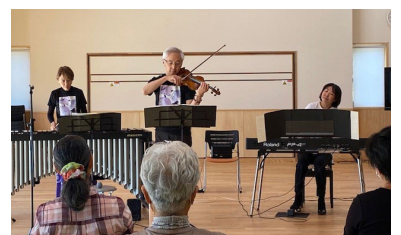
真こころサロンの
皆さんと春の遠足

南相馬市教育委員会事務局生涯学習課主催の「まちづくり出前講座」への登録を継続し、「生伴奏で歌いませんか」「手作り楽器で楽しもう」「パステルアート」の3講座への要請に応えました。カリタス南相馬1階多目的室で開催している真こころサロンは県外からイベントを持ってきたり下さる団体の皆様と楽しく活動したり、季節ごとに屋外に出かけたりと楽しいひと時をもつことが出来ました。また、手芸教室も定期的に開催できました。カリタス南相馬協力シスターによる「なんばんひろば」のサロン活動や「パステルアート教室」「英会話教室」なども継続しています。相双地域における音楽イベントの依頼があれば積極的に参加し、地域住民との交流の場をもちました。カリタス南相馬主催のコンサートも開催し、復興団地、障がい者施設、幼稚園、教会などでバイオリン・ピアノ・マリンバなど生演奏の素敵な音色を子どもたちや住民の方にお届けして喜んで頂くことができました。



パステルアートの出前
講座（太田小学校にて）

すすきだ音楽隊によるコンサート



4) サポートを必要としている子どもと大人の支援

「子育て応援」「外国人労働者支援」として、繋がりをもつことのできた支援の必要な方に、提供のあった生活用品や衣類などをお渡ししました。南相馬市のファミリーサポート事業も継続。カリタス南相馬の場所を提供し、「真こころ」スタッフの協力のもと、乳幼児の一時的な預かりを行いました。

子育て応援：聖心女子大学学生さん
手作りのクリスマスプレゼント



また、隣接するさゆり幼稚園からの要請に応え、給食の提供を行いました。小高区の災害公営住宅及び一人暮らしの高齢者を中心に、戸別訪問も継続しました。戸別訪問の際、聖心女子大学の皆さんが作成した「こころ通信」を隔月でお渡しし、交流の機会となりました。クリスマス時期には学生手作りのクリスマスカードやメッセージカードなどを子育て応援のお子さんや公営団地にお住いの高齢者の方、サロン参加者の方々にお渡しすることが出来ました。社会福祉協議会のサロン活動や地元のサロン活動への参加も継続し、交流の場作りに協力しました。

災害公営団地への戸別訪問



5) 持続可能な暮らしへの取り組み

持続可能な暮らしへの取り組みの一環としてコンポストの活用、カリタス畑における野菜作りも継続。畑から収穫された食材をカリタス南相馬での食事提供や幼稚園給食で活用しました。また、さゆり幼稚園園児のサツマイモの苗植え、成長見学、イモ掘りなどに畑を提供することができました。（なお、コンポストの作成及びカリタス畑を管理してくださっていた元スタッフの山田雅之さんは、今年の5月に帰天されました。お祈りください。）

サツマイモの苗植え



サツマイモ掘り



6) 東日本大震災と原発事故による被災地等の案内及び情報発信

東日本大震災と原発事故がもたらした福島での被災地における現状を伝えるための現地案内を行いました。



現地案内：大平山霊園

廃炉資料館、震災遺構となった請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館、中間貯蔵施設などの見学を行うことで被災地の現状を見て頂いたり、住民の方のお話を伺う機会を提供しました。現地のイベントや復興状況などを Facebook へ配信したり、「カリタスみちのく」や「東京教区ニュース」へ原稿を提供することでカリタス南相馬の活動内容や福島での現状報告を定期的に行いました。また YouTube を利用してカリタス南相馬チャンネルの配信も継続しています。

全国から6組の学生ボランティアグループが活動に参加

コロナ禍で約3年間宿泊受け入れができませんでしたが、制限解除後の夏休み、全国から6組の学生ボランティアの皆さんがカリタス南相馬を訪れて様々な活動に参加下さいました。その活動内容を写真でご紹介します。



東星学園高等学校（東京）
相馬野馬追祭行列ボランティア・
秋田豪雨災害ボランティア等に参加



京都暁星高等学校
秋田豪雨災害ボランティア等に参加



広島学院高等学校
幼稚園見守り補助・小高区の除草作業活動等に参加





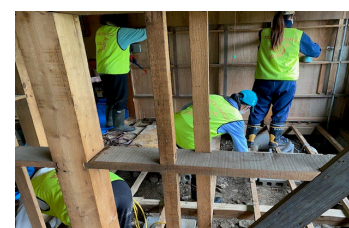
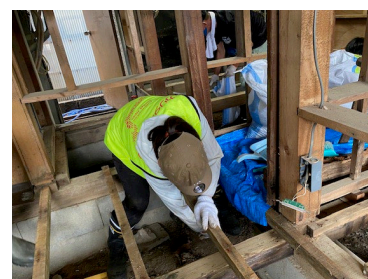
サレジオ国際中学校・
高等学校（東京）
浪江町大聖寺の除草作業活動等に
参加



聖心女子大学（東京）
さゆり幼稚園夏祭りの
ボランティアに参加



聖マリア女学院大学（福岡）
防災研修・秋田豪雨災害
ボランティア等に参加



「能登支援」の報告

1 支援としてスタッフ派遣を決める

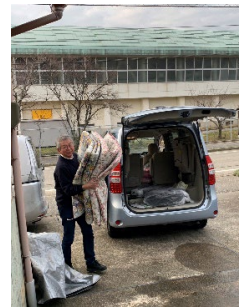
1月、カリタス南相馬として出来る支援についてスタッフ皆で話し合い、必要で尚且つ可能な方法を考えることは13年前の被災とその後の支援のあり方を振り返る機会でした。結果、E R S T（緊急対応支援チーム）メンバーへの支援とベース立ち上げの協力として、経験のあるスタッフを派遣することを決めました。留守中の活動は残りのスタッフで協力していく体制を敷き、随時活動や現地の報告を伝えることで南相馬との繋がりを作っていました。1月下旬以降3月末までの間にスタッフ2人を1週間交替で8回派遣しました。E R S Tの派遣の終了と共に、一度カリタス南相馬としての派遣支援は終了となりますが、今後も必要に応じて支援活動を続けてまいります。



被災地の様子

2 支援物資と車の提供

ボランティアの宿泊に向けてカリタス南相馬でストックしていた布団を2回に分けて届けました。また、水支援のための5000Lの水タンクや現地における車の必要性も聞き、この地で長年活躍していた聖心会の車を届ける等、随時現地で必要とされている物を確認しながら物資支援を行いました。



羽咋ベースへ布団を搬出

3 派遣スタッフの活動

(1) 金沢の「カリタスのとサポートセンター」で事務所運営への協力を行い、日頃カリタス南相馬の運営で培ってきたノウハウを役立てられるよう努めました。また、七尾市が断水する中、「カリタスのとサポートセンター」の活動として始める水支援のために、社会福祉協議会との連携と協力体制を作り、支援の依頼を受けられるよう努めました。

(2) 拠点となる「羽咋^{はくい}ベース」には当初の片付けから入り、ボランティア受け入れに向けての準備を手伝いました。また、実際にベースに宿泊することで気づけた生活に必要な細かい点も提案しつつベースの拡充を行いました。

(3) 「カリタスのとサポートセンター」の活動である「じんのび食堂」（じんのびは、のんびりという



食堂で一緒にのんびりと・・・

意味の方言）では、開催の手伝いだけでなく、日頃からカリタス南相馬で行っている幼稚園の「おにぎりづくり」やボランティアへの食事作りの経験を生かして豚汁提供の役割を引き受け、訪れた方々に喜んでもらうことが出来ました。

(4) また七尾市災害ボランティアセンターにおける災害廃棄物の片付けが始まると、現地スタッフと共に軽トラックの運転手としても活動しました。



断水が続くご家庭へ水支援

4 日頃の支援の繋がりや連携の大切さを確認

2年前の福島県沖地震でカリタス南相馬の活動に参加していた「チームふじさん」が行っている珠洲市での瓦礫撤去の活動に参加したことや、七尾市災害ボランティアセンターの活動に参加した際に気付いた点等を「南相馬市災害ボランティアセンター連携会議」において報告することが出来、日頃からの連携の大切さを再確認することが出来ました。



瓦礫撤去の手伝い

様々な出会いに感謝！

シスター 畠中千秋（聖心会）

2011年3月11日、東日本大震災によって東北地方太平洋沿岸部を地震と津波が襲った。福島県浜通りはそれに加えて東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射線災害が追い打ちをかけトリプル災害となった。同年5月「CTVC・カトリック東京ボランティアセンター」が立ち上げられた。カトリック原町教会との出会いを通して「共に祈ること」と「共に活動すること」により被災地と県外のボランティアとの交流が深まっていった。

2012年6月、カリタス原町ベースが原町区青葉町に開設され、池上あけみ氏がベース長に就任。同年12月、わたくし畠中が2代目ベース長に就任。南相馬市社会福祉協議会の屋外活動としての小高区の家屋の片づけが始まり、ボランティアの宿泊と食事の提供などの必要に応じていくことになった。浜通りでのボランティア活動を模索し始めていく頃に、仮設集会所におけるサロン活動「真こころサロン」との出会いがあった。ボランティアと被災者の皆さんとの交流の場・機会が増えてきた。また、カトリックさゆり幼稚園の預かり保育補助などの活動も始まっていった。

2016年12月、「カリタス原町ベース」は名称を「カリタス南相馬」にあらため、原町区橋本町に新築移転となった。2017年4月、仮設住宅集会所での活動の集約が進む頃、「真こころサロン」の活動はカリタス南相馬のホールを利用して継続することになった。2019年4月、カリタス南相馬は一般社団法人として出発。

2020年1月南原摩利氏がカリタス南相馬所長に就任。2024年現在もカリタス南相馬はボランティアに宿泊と食事を提供している。様々な活動を通して全国(世界)からのボランティアと地元の方々との交流を重ねている。さらには、他県の地震・豪雨などの災害にもボランティアを派遣するなどの要請にも応えている。

今日まで、活動が継続されてきたことに感謝！賛助会員の皆様、ボランティアの皆様、修道会、団体、スタッフ、元スタッフ、遠くの方々、近くの方々、祈りで支えて下さっている方々、様々な形で支援物資を送って下さる方々、本当にありがとうございました。「カリタス南相馬」を通して、様々な出会いがあり、さらに、ネットワークも広がっていきました。これからもその時その時に必要な要請に応えながら、カリタス南相馬の出会いの場は続いていきますので、ご支援の継続もどうぞよろしくお願いいたします。

長く南相馬で活動して下さった畠中千秋シスターは、4月より新しいミッションのため東京の修道院に戻るとなりました。畠中シスターと派遣して下さった聖心会に心から御礼申し上げます。（幸田）

新しくスタッフになって

カリタス南相馬スタッフ

宇根 節

「真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」（田中正造）

今年1月にスタッフとして働き始めた際に、カリタス南相馬に飾られていたこの言葉がとても印象深く残っています。田中氏の生き方とこの言葉にカリタス南相馬の大事な指針が反映されているのだと感じています。銅山から流れ出た鉱毒で汚され影響を受けた山や川や動物たち、植物たち、そして苦しんでいった住人を生み出していた「文明」への田中氏の大きな疑問は13年前の原発事故で始まった事柄を直接味わえるこの地だからこそ肝に響くのかもしれません。

山を荒らさない、川を荒らさない、住人を分断しない、そして人の命を奪わない「真の文明」は何であり何処にあるの？と思うときに、そのヒントはやはり「文明」によって傷ついたこの地にもあるのかもしれないと思います。カリタス南相馬は多くの方、特に若者に現地案内を通して学びの機会を提供していますが、その一つ一つが「真の文明」へのヒントを共に考えることであり、「真の文明のクリエイター達」の育成に繋がっていくのではないかと考えています。私も次世代へ大きな宿題を残してしまった一人ですが、今この地で一緒に見て考えるということや気づけたことの発信だけでも貢献出来たら嬉しく思います。

カリタス南相馬は

- ・東日本大震災と原発事故により、困難な状況におかれている人々とともに生き、すべての人々の尊厳が尊重される社会を目指します。
 - ・福島第一原発から25kmにある場として、福島の現実とそこに生きる人々の思いを世界につなぎます。
 - ・地球環境を大切に、自然との共存を目指します。
- ① 地域コミュニティの再創造に向け、地域の人々とともに働きます。
 - ② 原発事故がもたらした福島の厳しい現状と地域の日常の変化、いのちの尊さを学び、ともに祈り、伝えます。
 - ③ 自然とともに生きる暮らしの実現に向けて、生活を見直します。

2023年度会計報告

(2023年1月1日から12月31日まで) (単位:千円)

収入の部	金額	備考
受取会費	1,895	
受取寄付金／受取寄付金振替額	9,800	
受取助成金／受取助成金振替額	4,736	
受取利息／雑収入	1	
① 収入計	16,434	
支出の部	金額	備考
事業費(各事業費には、人件費含む)		
宿泊提供	3,820	
ボランティアコーディネート	1,852	
交流の場とイベント企画	1,553	
子どもと大人支援	2,998	
持続可能な暮らしの取り組み	474	
現地案内・情報発信	2,449	
災害支援	136	
管理費	3,338	
② 経常費用計	16,623	
③ 当期一般正味財産増減額	△189	①-②
④ 一般正味財産期首残額	84,095	
⑤ 当期指定正味財産増減額	△1,269	
⑥ 指定正味財産期首残額	9,392	
⑦ 正味財産期末残高	92,029	③~⑥計

<カリタス南相馬 賛助会員 募集中>

カリタス南相馬の活動を経済的にサポートして
くださる賛助会員を募集しています。

入会金 無料 年会費 一口5,000円 一口以上

会員特典 年1回発行のニュースレターを送付。

入会方法 カリタス南相馬にご連絡頂くか、下記
振替口座に氏名、住所、電話番号、賛助会員入会、
口数をご記入の上、年会費をお振込みください。
その他の寄付金も下記口座にお願い致します。

郵便振替口座 口座番号 02230-2-127643

口座名義 一般社団法人カリタス南相馬

ゆうちょ銀行二二九店 当座 (0127643)

あたたかいご支援ありがとうございました。

目標：賛助会員5000人

賛助会員：228人 支援金：207件

カリタス南相馬だより 第5号

2024年4月1日発行

一般社団法人カリタス南相馬 発行責任者:幸田和生

〒975-0006 福島県南相馬市原町区橋本町 1-15

TEL 0244-26-7718 FAX 0244-26-8007

E-mail: info@caritasms.com <https://caritasms.com/>

<https://www.facebook.com/caritas.minamisoma>